

スリナム月間情勢報告

(2022年2月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

2月のスリナム内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

1. 概況

- 米国地質学研究所は、ガイアナ、スリナム沖の推定石油埋蔵量ポテンシャルを380億バレルと発表
- ラムディン外相は、政府の対アフリカ外交はモロッコ及びガーナとの関係強化に重点を置き、そこから他のアフリカ諸国をカバーしていくと述べた。
- 政府は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を非難する声明を発出。

2. 内政

(1) 新型コロナウイルス

- (20日報道) ラムディン保健相は、緊急事態宣言を解除し、21日から学校を再開すると発表した。
- (23日報道) ワクチン接種キャンペーン開始から1年が経過。ルイスベル汎米保健機構(PAHO)代表は、国内で8,800人が感染したが、死者数が170人に止まっているのもワクチンのおかげである等述べた。
- (24日報道) スリナムは、22万6千800回分のファイザーワクチンを補充したが6ヶ月以内に使用期限が切れる。ラムディン保健相は、最良のワクチン戦略を模索中である等述べた。

(2) その他の内政

- (1日報道) トリクト前中央銀行総裁に懲役8年、罰金50万スリナムドルの有罪判決が下された。
- (8日報道) 昨年12月に職権乱用、汚職防止法違反、犯罪組織参加の罪で有罪が確定したウーフダド前財務相による異議申立を、2月11日に検討していると同元相の弁護士が表明。

3. 経済

- (10日報道) 政府は、昨年5月にデンマークのハイブリッド電力システム社と署名した大規模水素発電所建設契約につき、契約内容の不履行を理由として破棄すると述べた。
- (14日発表) IMFは、支援合意以降初めて行ったモニタリング(7~11

日)によると経済復興計画は順調で数値的目標は達成している、結果を理事会に提出すると発表。同日、財務省も経済再建計画の進捗につき、IMFのスタッフレベルの合意に達したと発表。

●(16日報道) サントキ大統領は、ガイアナでの国際エネルギー会議・エクスポに出席。スピーチでガイアナとスリナムがエネルギー供給不足を補う存在となり得ることを強調し、今後5年間、ガイアナ、伯との間で、インフラ、環境、投資、市場拡大、エネルギーの5分野で協力していくと述べた。

●(16日報道) ガイアナを訪問中のサントキ大統領は、モトリー・バルバドス首相と会談し、バルバドスの農業従事者に対しスリナムの土地を提供することを含め、航空関連、観光促進関連での協力に合意に達した。

●(21日報道) トタル、AP A社は、58海区のクラブダグで新たな油層を確認した。

●(22日報道) 米州開発銀行は、社会経済復興を目的とした教育、飲料水供給、社会保障網のプロジェクト実施のための計8500万米ドルの支援に署名。

●(23日報道) サラマッカ運河の浚渫を行う洪水対策プロジェクトが世銀の支援で開始。

●(25日報道) 米国地質学研究所は、ガイアナ、スリナム沖の推定石油埋蔵量ポテンシャルは380億バレルと発表

●(25日報道) 統計局は、昨年12月から1月の物価上昇率を3.1%、前年同士の1月の物価上昇率を61.5%と発表。

4. 外交

●(3日報道) オランダを訪問したマトゥーラ国防相は、同国のオロングレン国防相と会談。両国の協力関係の重要性と更なる強化で合意。

●(11日報道) ラムディン外相は、モーリシャスおよびブータンと近く国交を樹立予定と発表。

●(12日報道) ラムディン外相は、政府の対アフリカ外交はモロッコ及びガーナとの関係強化に重点を置いており、そこから他のアフリカ諸国をカバーしていくと述べた。

●(20日報道) ジュベイル・サウジアラビア外務担当国務相がスリナムを訪問し、ラムディン外相、アハイバイシン財務・計画相他と会談。

●(23日報道) マトゥーラ国防相は、オランダの支援により国軍が将校訓練を開始したと表明。

●(24日報道) 政府は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は国連憲章に規定された国際平和と安全の維持に違反するものとして非難し、ウクライナの国家主権と領土保全を支持し、即時停戦と外交的対話への復帰を要求する声明を

発出。